

今日は2月3日、節分だ。暦の上では立春とはいえ、朝夕の寒さばかりでなく、日中さえ、身も心も凍りそうな寒さだ。去年は、新型インフルエンザが猛威を振るい、死者も続出した。その感染力の強さに、日本中が、いや世界中が怯えた1年間だった。その上さらに、余市、小樽方面では、ノロウイルスまでも蔓延した。小樽市内ではいくつかの福祉施設などで、死者が出たとの報道さえもあった。

ところがどうだろう！長いひきこもり状態から抜け出したとはいえ、体力的にはまだまだ皆が弱さを抱えているはずのビバの若者達が、風邪を引き込むこともなく、全員元気に新年を迎えることが出来た。ビバの冬休み期間中（12月15日から1月16日まで）も、家に帰らず町内でアルバイトを続けた6人も（余市町臨時職員、松浦組、京食）無事やりとげた。

どうしてこんなに元気になったのか？まず第一に寒さに負けない体を作る野菜（玉葱、にら、長葱、にんにく、しょうが、人参など）がたっぷりのおいしいおかずの食事をしっかりとお腹いっぱい食べているからではないかと思われる。すべての物が3割以上値上げの中で、9年間一度も値上げなしの1日食費千円の予算で、お代り自由のこんな食事をさせてもらえるのは、全国の皆さんからの切れ目のないご支援のおかげだ。過去7年間、毎年2ヶ月に1度、30キロのお米を2袋ずつ、日高から送ってくださる牧場主の吉田さんをはじめとして、毎年長いもや野菜、果物を定期的に送ってくださる皆さんのおかげで若者たちの健康も守られているのだと感謝の気持ちでいっぱいだ。

前号でお知らせした行政刷新会議による「若者自立塾廃止決定」は、その後の関係者、関係団体の皆さんの機敏な抗議行動（12月14日には東京で抗議集会が開かれ夫も参加して発言し、NHKで全国放映された）や、マスコミを含めた世論の急速な盛り上がりもあって、思いがけないほどの新しい展開を見せた。今日段階では、まだ最終的な結論はでないが、厚労省が所管する「緊急人材育成・就職支援基金」を活用した、新たな制度が創設されることになった。

1月8日に東京で開かれた「全国若者自立塾塾長会議」での厚労省よりの発表では、この3月末で自立塾は廃止になるが、新年度からは、上記の「基金」を活用した6ヶ月間の合宿型訓練制度を「社会的事業者訓練コース」として新たに発足させるとの事であった。この合宿型基金訓練コースでは、6ヶ月間の合宿者には全員無料の就労訓練が実施され、原則的に、参加者全員に1ヶ月10万円の生活支援金が期間中支給される。訓練実施組織には、1ヶ月1人につき10万円の奨励金が支給される。（若者自立塾の時は3ヶ月に限り1ヶ月9万円であった。）

「事業仕分け人」たちの、若者自立塾は、「現行制度を抜本的に見直し、廃止する」との

結論は、厚労省の英断で、特にこれまで経済的な理由で「若者塾」に入れなかった若者たちにとって、救いの手として大きな可能性あるプランを導き出すことになったといえよう。